

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 1173201102 |
| 法人名 | 有限会社 関根 |
| 事業所名 | グループホーム 関根塾 |
| 所在地 | 355-0303 埼玉県比企郡小川町奈良梨346-1 (電話) 0493-71-5011 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター |
| 所在地 | 330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 |
| 訪問調査日 | 平成19年12月7日 |

【情報提供票より】(平成19年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|-----------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成17年9月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤5人, 非常勤7人, 常勤換算4.8人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|-----------|
| 建物構造 | 木造造り |
| | 1階建ての1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-------------|----------------|------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 48,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000円+実費 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(150,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(11月22日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 7 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 4 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 1 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84.5 歳 | 最低 | 71 歳 | 最高 | 100 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | いわほりクリニック、いとう歯科クリニック |
|---------|----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは自然環境が豊かな郊外の広い敷地の中に設置されている。単独ユニットで家庭的な雰囲気がある。グループホームとしては珍しく重度化対応に積極的に取り組み、かかりつけ医との連携も緊密で看取りの体制ができています。管理者と職員が一体となって質の高いケアを提供しようという意欲が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、特に改善課題として提起されたものはなかったが、自分達の日頃の仕事について第三者的に見直しをする良い機会になっている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の作成は全職員が行い、ミーティング等でそれらについて意思統一を図っている。評価結果については、ケアの実践に結び付けていく努力をしている。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、職員、医師、家族、地域包括支援センター職員、近隣の代表がメンバーである。施設の運営や処遇の問題等を報告、協議している。今後はメンバー構成も考慮しながら年数回実施することを検討中である。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には月1回書面で利用者一人ひとりの状況を報告している。また、苦情相談窓口を設置し、その周知を図っている。家族会は年1回開催し、ホームの運営について色々な意見をいただいている。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の隣組に加入し、近隣の祭りや演芸会には積極的に参加している。近所の人達と一緒に野菜や花も栽培している。</p> |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々の生活の中で喜びと安らぎのある家庭を共に築くことを理念としている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者は、職員との毎日の会話の中で理念について説明したり、月1回の職員会議で、事業所の理念・方針を浸透させている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 隣組に加入し、近隣の祭りや演芸会などの行事、イベントには積極的に参加している。また、近所の人達と一緒に野菜等を栽培している。家族の了解を得て、近所に利用者の紹介をしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価については、全職員がそれぞれ評価を行い、それを集約する過程で話し合いをして自己評価を完成させている。また、その評価結果については、ケアの実践に生かす努力をしている。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の構成メンバーとは、普段から頻繁に顔を合わせるため、そのつど意見交換を行っている。会議では、運営や処遇の課題等を報告している。 | | |

埼玉県 グループホーム関根塾

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 町の担当者との交流はある。地域包括支援センターは町直営であり、且つ、その職員は運営推進会議のメンバーでもあるため、事業所に来訪する機会があり日頃から連携できている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族には、毎月1回生活状況を書面にして報告している。また、管理者がケア状況を詳細にメモしており、家族等の希望があれば閲覧することも可能である。家族会は、年1回開催している。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口を設置し、外部の窓口も含め、家族等への周知を図っている。また、家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 開設時から介護職員の退職はない。退職のケースがあった場合は、利用者へのダメージを防ぐような対応することを心がけている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の必要な研修には極力参加させている。また、内部では、月1回の職員会議の中、各種マニュアル、ケアの技術等について勉強会を行ったりしている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会の北部支部での研修会には積極的に参加している。また、他グループホームで、入職時等に体験研修を行わせている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用申込があった際は職員が必ず家庭訪問し、また、可能な限りホームを見学してもらい、利用者の状況把握と不安解消に努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者の日課は作らず、本人のできることに着目し、好きなことをやってもらっている。折紙、針仕事、子ども達とのふれ合い等、日常生活を利用者と職員が一緒に楽しむことを目指している。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃から、利用者の思いや希望などを把握するよう努めている。なるべく、利用者自身のペースで自由に生活ができるよう支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族、主治医の意見を聞きながら、プランの作成をしている。職員も原案作りから参加し、計画に沿った支援を実践しやすい環境づくりを心がけている。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月から6ヶ月毎にプランの見直しを行っている。本人に変化があった時は家族や主治医の意見を聞きながら、すぐにカンファレンスを実践し、見直しを図っている。 | | |

埼玉県 グループホーム関根塾

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族からの要望にはできるだけ柔軟に対応している。入院、通院、買物、遠出の外出等も、事業所が協力する体制をとっている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者やその家族が納得した上で、ホームの協力医療機関の医師が主治医となっている。また、主治医が頻りに往診してくれているので、利用者も家族も安心している。入院が必要な時も、情報提供や連携が充分に取れている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期の看取りマニュアルを作成しており、入居時に同意書を交している。また、実際に終末期を迎えた方の家族とは、ホームの方針について良く話し合っている。ホームの対応についての最終的な判断は、主治医に委ねている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人の尊厳を傷つけるような言動はしないように心がけている。記録等や会話などもイニシャルを用いて個人が特定できないよう配慮している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間以外は基本的に自由である。利用者自身でできることについては、時間がかかってもその方のペースを大切にして見守っていくケアの方針を職員間で徹底させている。 | | |

埼玉県 グループホーム関根塾

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の身体能力の状況から、一緒に準備ができる利用者は少ない。テーブル拭き程度は手伝ってもらっている。食事は同じテーブルで利用者と職員が同じものを一緒に食べ、会話を楽しんで食事している。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 希望があれば毎日入浴できるよう用意をしている。入浴が嫌いな方もいるので、最低週2回は入浴してもらうよう声かけに工夫している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | テーブル拭き、犬の世話、植物の世話など、それぞれの好みや能力に応じたことをやってもらい、生活に潤いと張りを持ってもらうよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 以前は図書館へ行く人もいたが、重度化してきて外出できる人が少なくなっている。こちらから誘って近所の散歩や買物等の支援を行っている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中鍵を掛けることはしていない。外へ出たがる人へは、付き添って近所を散歩したりして気を紛らわし、利用者の精神的安定を図っている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災訓練を実施し、非常時の動きなどを全職員で確認した。また、災害時における地域住民との関係の構築に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食毎に食事の摂取量の把握に努めている。本人の好み、塩分、とろ味、ペーストなど一人ひとりの状態に合わせた食事を提供できている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は季節を感じられるよう装飾を施している。また、クリスマス、正月、七夕などの季節の行事では利用者と一緒に飾り付けを行っている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | こたつ、テレビ、筆筒等、自宅で使用していた物を自由に持ち込むことができるなど、利用者一人ひとりの希望や趣向に合った居室づくりに配慮している。 | | |